

平成29年度第2回独立行政法人造幣局契約監視委員会議事概要

開催日時及び場所 平成29年12月15日（金）9時30分～10時30分 造幣局会議室

委員 松川 正毅（大阪大学 名誉教授、大阪学院大学法学部 教授）（委員長）
谷口 勢津夫（大阪大学大学院高等司法研究科 教授）
伊勢田 道仁（関西学院大学法学部 教授）
神部 裕之（独立行政法人造幣局 監事）
初岡 直子（独立行政法人造幣局 監事）

審議対象 個々の契約案件の事後点検【平成29年度上期（4月～9月）】

- | | |
|--------------------------|------|
| （1）新規の随意契約となった案件 | 0件 |
| （2）2か年度連続一者応札・応募契約となった案件 | 7件 |
| ・うち一般競争入札で一者応札のもの | （3件） |
| ・うち公募で一者応募のもの | （4件） |

調達等合理化の推進に向け議論すべき事項

- （1）合理化計画の実施状況の点検
 - ・契約全体の一覧表による点検
- （2）随意契約における予定価格の適正性及び価格合理性の担保に係る点検
 - ・随意契約及び一者応札・応募契約におけるいわゆる落札率（契約金額／予定価格）による点検

委員からの意見・質問、それに対する回答等

下記のとおり

委員会による意見の具申又は勧告の内容

特になし

意見・質問	回答
<p>(2か年度連続一者応札・応募契約となった案件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1円アルミ円形の調達は、内製化でコイルの調達による競争入札に移行される見込みであるとのことであるが、5円黄銅油円形も内製化により、コイルの調達という契約形態にはならないものか。 ・クレジットカードの利用による貨幣セット等の信用販売に係る加盟店契約において、JCB、アメックス、ダイナースの3種類を1つの加盟店契約(JCB)とし一者応募となっているが、分割調達は可能か。 <p>(合理化計画の実施状況の点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話の長期継続契約においては交換機の制約で随意契約を継続しているとのことであるが、具体的にどのタイミングで一般競争入札に切り替わるのか。 ・予定価格の欄がすべて、「同種の他の契約の予定価格を類推させる恐れがあるため公表しない」となっているため、いくつか類型化するなど工夫が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣製造一貫工程における製造ラインのキャパシティを勘案し、造幣局でしか製造しておらず、外注することのできない500円ニッケル黄銅円形などを優先的に製造しているため、5円黄銅円形は外注に頼らざるを得ない状況である。 ・JCB以外の2つのブランドについては分割し、競争入札にかけられるか調査を行う。 ・交換機更新の準備を始めている段階であり、災害時優先回線提供の確認も踏まえ、一般競争入札に移行したいと考えている。 ・検討する。

意見・質問	回答
<p>・空調設備改修工事の2件がどちらも低入札となっているが、業界で恒常的に安くできるような状況であれば、予定価格を見直す必要があるのではないか。</p> <p>・機械の修理・保守は公募しても、結果、機械の納入業者から調達することが多いのか。</p> <p>・機械の購入契約をする際、保守契約も含めた契約もあるのか。</p> <p>(随意契約における予定価格の適正性及び価格合理性の担保に係る点検)</p> <p>・動産引渡等請求事件訴訟（一審）の契約金額の内訳は。</p>	<p>・業者からのヒアリングによると、2件のうち、広島支局の工事では同時期に別の法人の空調設備工事があったこと、大阪本局の工事では下請けに発注することなく、人件費が抑えられたことが低入札の要因となったもので、個別事情によるものである。</p> <p>・造幣局仕様に設計したものについては納入業者以外が手を上げることは難しい。汎用機械でも納入業者にノウハウがあるため、結果、納入業者から調達するケースが多い。</p> <p>・イニシャルコストとメンテナンスコストを合わせたトータルコストで競争させるほうが安く収まる場合があり、その方向に進むものもある。一方、寿命の長い機械の場合、何年も先の保守を契約に入れてしまうとコストアップとなってしまったため、機械の寿命に応じた保守の期間を考え、一番有利な方法で契約をするように考えている。</p> <p>・被害額が確定しているため、着手金と成功報酬の最大額を合計した金額で契約している。</p>